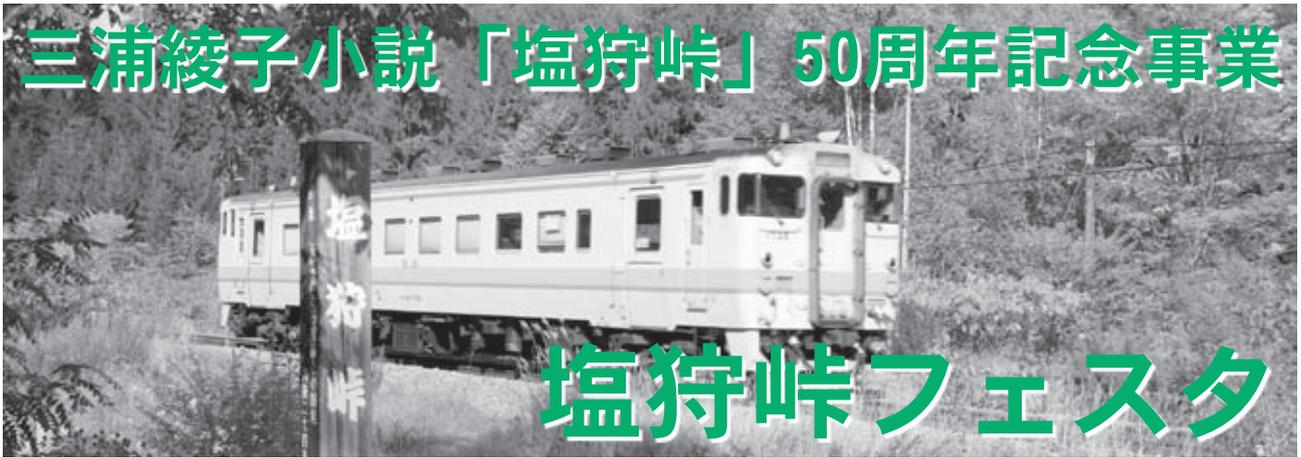


三浦綾子小説「塩狩峠」50周年記念事業



塩狩峠フェスタ

300人が塩狩峠に

平成28年9月25日(日)、三浦綾子さんの小説「塩狩峠」連載開始から50周年を記念して「氷点」の旭川市、「泥流地帯」の上富良野町と連携した記念事業の一つとして塩狩峠フェスタが開催されました。

この日はJR北海道の協力でイベント列車「塩狩峠」号が運行され、満員の約130名が塩狩峠を訪れました。

フェスタでは、「塩狩峠の道」と名付けられたフットパスコースの散策や塩狩峠記念館内での朗読劇、記念館周辺でのジンギスカンコーナーや特産品販売ブースなど、300名の来場者が小説の舞台「塩狩峠」の自然を満喫しました。



JRの到着にあわせて塩狩太鼓で来場者を歓迎



フットパス参加者が無事に夫婦岩までたどり着き、記念に1枚



小説の舞台を踏みしめ、夫婦岩をめざす参加者

来場者の主な目的のフットパスには100名以上が参加し、短距離、中距離、長距離の3つのコースで自分の体力に合わせて散策を楽しんでいました。すでに開催された上富良野町の「泥流地帯の道」や旭川市の「氷点の道」にも参加した方は、3市町全てのフットパス完歩証明スタンプを集め、爽やかな達成感に浸っていました。



臨時列車にはこの日限定のヘッドプレートが



三浦綾子さんが小説を執筆した場所でしっかりと朗読劇



フットパスのあとは特設会場で和寒ジンギスカンを堪能